

「非小細胞肺癌において経気管支生検検体での遺伝子パネル検査の施行割合 及び検査の成功割合の検討」へご協力をお願い

— 2020年1月～2021年11月の間に、当院で気管支鏡検査を受けた患者様へ —

研究責任者 岩国医療センター 呼吸器内科 田村 朋季

1. 研究の背景・目的

進行非小細胞肺癌の治療方針を決定するにあたり、遺伝子変異・転座の有無を確認することは必須事項となっています。しかし、治療標的となる遺伝子変異・転座が増えてきたことに伴い、検査を行うためには十分な量の腫瘍細胞を検査で採取することが重要になってきています。またそれぞれの遺伝子変異検査を提出することよりも、遺伝子パネル検査を行うことで複数の遺伝子について網羅的に検査を行うことで治療の選択肢を早期から広げることができるようになってきました。しかし、一方で遺伝子パネル検査を提出するにはより多くの腫瘍細胞を検査で採取することが必要になっています。この研究の目的は、気管支鏡検査で診断された非小細胞肺癌患者さんにおける、遺伝子パネル検査の実施割合及び、提出した検体で十分な検査ができた割合を調べることで、どのようにすれば、1回の気管支鏡検査で十分な検査ができるかを検討し、今後の診療において肺癌患者さんの検査の負担を軽減させ、また早期から十分な治療を行えるようにすることで治療成績を向上させることです。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2020年1月～2021年11月までに、当院で気管支鏡検査を行い、肺癌と診断された患者様が対象となる予定です。

2) 研究期間

2022年1月開催倫理委員会承認後～2023年12月

3) 研究方法

研究者が既存のカルテ情報からの情報を取得し、解析を行います。

4) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの個人情報は削除し、匿名化して、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。抽出項目は性別、年齢、肺癌の組織型、肺癌のステージ、肺癌のできた場所、気管支鏡検査の方法、気管支鏡検査で採取した肺癌細胞を用いて行った検査の内容に関する情報です。

5) 情報の保存・二次利用

この研究に使用した情報は、匿名化した上で、研究終了について報告後5年間当院に保存し、新たな医学研究に使用させていただきます。また、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、岩国医療センターのホームページに情報を開示してお知らせします。

カルテデータから抽出し評価する観察研究であり、患者さんの個人情報を抹消した状態で解析します。

従って、患者さんの個人情報が外部に漏れる心配はありません。この研究にご質問等がありましたら、下記の問合せ先にお尋ね下さい。

<問い合わせ・連絡先>

研究責任者：岩国医療センター呼吸器内科 医師 田村 朋季

〒740-8510 山口県岩国市愛宕町1丁目1番1号

TEL 0827-34-1000（代表）